

令和 2 年 6 月 11 日 作成

酒井 泰雄

令和 2 年 7 月 2 日 修正

大塚 崇光

日本物理学会第 75 回年次大会インフォーマルミーティング
(ビーム物理研究会総会) 議事録

期間: 2020 年 4 月 8 日 (水) から 5 月 15 日 (金)

開催方法: メール審議 (新型コロナウイルス感染拡大防止のため)

配布, 掲載資料

2020S-0: 議案資料

2020S-1: 前回議事録

議事内容

1. 前回議事録確認
2. 報告・審議事項
 - 2-1. 日本物理学会ビーム物理領域
 - 2-2. ビーム物理研究会関連
 - 2-3. 日本加速器学会関連

1. 前回議事録確認 (資料 2020S-1)

2019 年 8 月 3 日に開催された第 16 回日本加速器学会年会におけるビーム物理研究会インフォーマルミーティング (ビーム物理研究会拡大幹事会) の議事録 (配布資料 2019F-1) について内容確認が行われた。意見・コメントは無く議事録として承認された。

2. 報告・審議事項

2-1. 日本物理学会ビーム物理領域関連

[大会関連]

一般講演について

一般講演の件数および内訳についての報告があった。第 74 回年次大会 (2019 年春) の講演件数は 171 件 (合同分を除くと 87 件) であったが、第 75 回年次大会 (2020 年春) の講演件数は 87 件 (合同分を除くと 63 件) であった。その内、主催シンポジウムが 0 件で 0 講演、他領域主催合同シンポジウムが 2 件で 19 講演、領域横断シンポジウムが 0 件で 0 講演、合同招待講演が 0 件で 0 講演であった。

今年次大会においては調整不足で主催シンポジウムは 0 件となった。

一般講演件数の推移について

今年次大会 (2020 年春) の講演数を含む過去 13 年間における日本物理学会年次大会での一般講演件数の推移についての報告があった。合同分を除いた主催分の講演件数は微減した。

他領域との比較 (今大会)

今年次大会 (2020 年春) の講演件数の他領域との比較に関する報告があった。合同による増分を除いた比較において講演件数は最下位である。ポスター発表を除く領域 6, 7, 9 及び領域 10 と比べて 2 割程度低い講演件数であった。

所属機関別内訳

今年次大会 (2020 年春) の講演者所属機関別内訳に関して報告があった。昨年に続き広島大学が最も多い所属機関であった。

他領域との合同セッション

今年次大会 (2020 年春) の他領域との合同セッションに関して報告があった。「J-PARC と原子核素粒子実験」は「大強度加速器・測定器の技術」に名称変更されたが例年通りの発表件数であった。「イオントラップ・非中性プラズマ・レーザー冷却」は 0 件と減少した。

招待講演・チュートリアル講演

今年次大会（2020年春）の招待企画・チュートリアル講演に関して報告があった。若手奨励賞受賞記念企画講演以外にチュートリアル講演が1件となった。

シンポジウム講演

今年次大会（2019年春）のシンポジウム講演に関して報告があった。前年次大会（2018年春）では主催2件、共催6件であったが、今年次大会（2020年春）では主催0件、共催2件であった。今回の主催0件は調整不足のためであり、今回の反省をもって次年度は早めの周知を徹底するとともに多くのご提案をいただけることを要望する。

若手奨励賞受賞記念講演

今年次大会（2020年春）の若手奨励賞受賞記念講演に関して報告があった。前年次大会（2019年春、受賞者1名）同様、今年次大会においても1名（北村 遼氏 日本原子力研究開発機構）が受賞した。今年次大会の公演は現地開催中止となったため、記念講演は次回に延期となった。

博士論文も審査対象となるため、研究会メーリングリストまたはホームページを参照の上積極的に応募して欲しい。応募期限は例年通り7月下旬とすることを確認した。

来年度大会までのスケジュール

秋季大会までのスケジュールが確認された。「素核宇」は2020年9月14日から17日まで筑波大学（筑波キャンパス）で開催され、「物性」が9月1日から4日まで熊本大学で開催される。ただし、新型コロナウイルスの拡散防止自粛要請のために、変更が加えられる見込みがある。

日本物理学会 学生優秀発表賞の登録状況

ビーム物理領域では前回次大会（2019年春）から学生優秀発表賞の審査及び授与が開始している。合計24名の応募があったが、現地開催が中止となったため実施規則において定めている方法により評価が行えないと判断し選考を中止した。

講演の英語化についての意見聴取

昨年11月の領域委員会にて、講演の英語化が発議され意見交換が行われた。当初の主な意見は以下の通りである。

<英語化を推奨>

外国人留学生、外国人研究者が年次大会、秋季（春季）大会に参加しやすいように、発表を英語化したいとの声がある。外国人を呼び込むことで、減少する会員数の歯止めを期待。学生、若手会員が英語で発表するトレーニングになる。

<英語化に慎重>

短い発表時間内で、英語にて内容を正確に伝えて意味のある議論ができるか。発表のハードルがあがって、発表数が減る懸念。母国語（日本語）で物理を議論することに意味がある。

各領域に意見聴取依頼があり、ビーム物理領域（ビーム物理研究会会員）からは下記の意見が挙げられた。

- 推進事項に比べ慎重事項による弊害が大きい。英語でまともな議論ができるのか。国際会議でまずは慣れないと、議論にならないのでは。
- 研究成果の重要度以前の問題として、口頭発表を行うに十分な英語力を持っているかどうかを重視せざるを得なくなる点が問題ではないか。
- 若者達の語学力の向上は確かに極めて重要な課題だが、物理学会の発表を通じてトレーニングすべき事なのかどうか。会合の本来の目的から外れるのでは。

[領域運営関連]

執行部と事務局の確認

ビーム物理研究会及び日本物理学会ビーム物理領域の現執行部の確認が行われた。また2021年4月からのビーム物理研究会及び日本物理学会ビーム物理領域の執行部体制は日本加速器学会の年会中に開催する拡大幹事会にて議論することが確認された。

次期領域運営委員について

領域運営委員の酒井 泰雄氏（阪大）の後任として、量研関西研の宮坂 泰弘氏が推薦され承認された。任期は2020年10月から2021年9月までの1年間となる。

2-2. ビーム物理研究会関連

[研究会関連]

ビーム物理研究会・若手の会 2019 の報告

ビーム物理研究会・若手の会 2019 は、大阪大学産業科学研究所、大阪大学 RCNP の主催により2019年11月25日から27日まで開催された。参加者は64名（うち学生は29名）であった。

来年度の研究会・若手の会について

ビーム物理研究会・若手の会 2020 に関して説明があった。次回のビーム物理研究会・若手の会は理化学研究所二科加速器センターにて2020年12月8日（火）から10日（木）に開催する予定であること、実行委員長は奥野広樹氏（加速器基盤研究所 副部長）であること

が確認された。

[研究会運営関連]

若手の会の運営報告 (原田 寛之氏 JAEA/J-PARC より)

若手の会向けに配信済みの資料, 「2019 年度 ビーム物理研究会 幹事会報告承認資料」の報告確認が行われた。

2-3. 日本加速器学会関連

第 17 回日本加速器学会年会のお知らせ

下記の内容にて次回加速器学会が開催されることが報告された。

会期: 2020 年 8 月 4 日 (火) ~ 8 月 6 日 (木)

後援: 愛媛県, 松山市 (予定)

会場: 愛媛県松山市 愛媛県県民文化会館

見学会: 8 月 7 日 (金) 午前

コース1: 松山市内コース (愛媛大, 三浦工業, 井関農機)

コース2: 新居浜コース (住友重機械工業)

備考: 会期中にインフォーマルミーティングとしてビーム物理研究会の拡大幹事会を開催する予定